

学 校 名	美濃加茂市立伊深小学校 (校長 深尾 鉄明)
活動の種類・単位	防災教育について 全校児童、保護者、地域住民
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間、学級指導

1 活動テーマ

「自分の命は自分で守ることができる子を育てる」

2 主な活動内容

(1)防災デイキャンプ <日 時>10月19日(金)3校時~6校時 <参加者>5・6年生18名

① 災害時の非常食作り

日本赤十字社岐阜支部のハイゼックス炊飯袋を活用して、「たまごカレーライス」を作った。市役所伊深連絡所の備蓄倉庫にあるハソリを借用し、ご飯と野菜入りのカレールー、ゆで卵を作った。

どの児童もとてもおいしく作る事ができた。ハイゼックス炊飯袋を活用することで、簡単に、しかも温かいものを作ることができる事が理解できた。



② 防災学習『防災講話』

岐阜大学地域減災研究センター特任准教授の村岡治道先生にきていただき、「家庭内DIG」と題して、自分の命を自分で守る方法についての講話をしていただいた。地震によって家具や棚がどのようになるのかを実際の映像で説明し、実際の家の中の家具や棚の配置を図に表し、危険箇所をチェックしながら、どの位置に逃げるのがいいのかを考えることができた。また、地震から身を守るための「ダンゴムシのポーズ」についても、実際に動作しながら考えることができた。そして、家庭における防災として、家具の固定や、必要のないものの移動、飛散防止フィルムを貼ることなどを家族で一緒に取り組むことも考えた。



③ 防災活動『飛散防止フィルムの貼付作業』

学校職員であるスクール安全サポーターさんから飛散防止フィルムの貼り方を教えていただいた。ガラスをきれいに掃除してから、専用ののりを使って貼付する。大変な作業 だったが、協力して貼ることができた。とてもいい体験をすることができた。このことにより、各家庭でも飛散防止フィルムの貼付作業をすることができるとよい。



(2)親子防災教室

＜日 時＞ 11月4日(日)10:30～11:30

＜参加者＞ 全校児童62名、教職員15名、保護者35名、地域住民30名

＜講 師＞ 岐阜大学地域減災研究センター 特任准教授 村岡治道先生

＜演 題＞ 「通学路や地域に潜む危険」

全校児童親子で、防災に関する講話を聞いた。普段通学に使っている道路にも、たくさん の危険があることが分かった。大規模地震の後の実際の写真や映像を見せていただき、危険 性がよく伝わってきた。

ブロック塀や古い家屋、看板や大木など、普段からよく確認しておき、いざという時に、たとえ1mでも危険を回避する行動をとることが重要であることがよく分かった。自分の命は自分でしか守れないこともよく分かった。今回は、保護者や地域の 方々も一緒に聞くことができ、地域で防災について考えるきっかけとなった。



3 「まもるいのち ひろめるぼうさい」を活用した公開授業

(1)公開した学級等

学年	学級数	児童生徒数	主な参観対象者、内容(約 名)
2	1	10	学校職員、地震災害(12名)

(2) 実施した学級等

学年	学級数	児童数	内容
1	1	14	地震災害
1	1	14	風水害
2	1	10	地震災害
2	1	10	風水害
3	1	7	風水害
4	1	13	風水害
5	1	13	風水害
6	1	5	風水害

(2)児童・生徒、授業者、参観された方の感想等

＜防災デイキャンプ＞

ハイゼックス包装食づくりでは、電気が使えなくなった時に、炊飯器を使わなくてもお米をたく方法を初めて知りました。災害時は水道が使えなくなることも多いので使い捨ての皿を使って、水を節約することができることも分かりました。実際に災害が起きた時には、今日学んだことを生かしたいです。

家庭内の危険についての話では、実際の映像を見た時に、棚が次々とたおれ、物があちこちに動いていて、とても驚きました。地震はいつ起きるか分からないので、しっかりと早めに対策をしないといけないと思いました。地震が起きたら、必ずしも机の下が安全だということではないということも分かりました。まずは、上と身の周りを確認して安全に行動できるようにしたいです。

飛散防止フィルムを貼る活動では、貼り方はそんなにも難しくはないということが分かりました。ガラスが割れた時、飛び散らなくて安全なので、家のガラスにも貼りたいです。今からしっかりと対策をして、自分の身を守れるようにしたいです。

<「まもるいのち ひろめるぼうさい」を活用した授業>

- ・教室の中にもいろいろな危険なものがあることがわかりました。大きな地震が起こったら、周りをよく見て、行動したいと思いました。(2年児童)
- ・緊急地震速報がなったら、すぐに自分の命を守る行動をしたいと思いました。(2年児童)
- ・定期的に、命を守る訓練やシェイクアウトの訓練をしているので、危険を予知する力や自分の命を守る行動力が身につけてきており、いろいろな場面を想定した学習でもしっかり考えることができた(授業者)
- ・実際の映像も見ることができ、「まもるいのち ひろめるぼうさい」の良さがよく分かった。今後も活用していきたい。(参観した他の学級担任)

4 事業の成果、効果等

- 岐阜大学地域減災研究センターの村岡先生の講話は、子どもを引き付けるものであり、集中して聞くことができた。また、実際の場面を想定して、自分のこととして考えることができ、本当の防災の力につながっていくと感じた。さらに、聞く学習だけに留まらず、実際に動きを確認したり、目視で確認したりする行動を伴う学習もあり、防災への意識が高まっていると感じた。
- 親子で一緒に防災について考えることで、家庭の話題の一つになり、実際に大規模地震の発生時に、家庭ではどう行動するのか、別々にいた場合にどこに集合するのかなど、親子で考え合うきっかけとなった。
- 「まもるいのち ひろめるぼうさい」を活用して、『風水害』の学習をしたことで、日頃の登下校時に気をつけることを考え、災害への意識が高まった。特に、高学年は、リーダーとして分団の下級生を守ることへの意識も生まれてきた。